

# 広島 さよなら被爆78年



米軍による広島への原爆投下から6日で78年を迎える。広島市の平和記念公園では、原爆投下時刻の午前8時15分に合わせて、平和記念式典が開かれる。5月に広島市で開かれた主要7カ国首脳会議（G7サミット）後、初めて迎える「原爆の日」。岸田文雄首相や12カ国の駐日大使らが参列する。

▼4面=米世論は、6・7面=平和シンポ詳報、10面=社説、29面=家族の被爆語り継ぐ  
広島市の松井一実市長

原爆ドーム脇を流れる元安川で5日夜、原爆犠牲者らを慰靈するかぎり火がともされた=広島市中区、田辺拓也撮影

G7サミットで発表された核軍縮をめぐる「広島ビジョン」は核抑止論を肯定する内容だった。ロシアによるウクライナ侵攻が続き、核使用の懸念も高まっている。「核兵器なき世界」の実現に向け、岸田首相からこのようないいメッセージが発信されるかが注目される。今年3月末で被爆者の平均年齢は85・01歳となり、初めて85歳を超えた。被爆者健康手帳を持つ人は11万3649人で、前年より5286人減った。式典では、この1年に新たに死んだが確認された被爆者5320人の名前を加えた原爆死没者名簿が奉納される。死者の総数は計33万9240人となる。

は平和宣言で「核抑止論は破綻している」として、一人ひとりが、世界中の指導者に対して、核抑止論から脱却することとを促すことが重要だ、と訴える。